

大館北秋田地域林業成長産業化協議会
連絡会議（構想検討会）

次 第

【午前の部／対象分野：「森林整備・素材生産」、「苗木生産」、「木質バイオマス」】

日 時：令和4年7月7日（木） 10：00～12：00

会 場：大館市北地区コミュニティセンター 別館2階 多目的室

1 開 会

2 事務局長あいさつ

3 協議案件

（1）地域概要について ※事務局説明

（2）協議会アンケート（3月実施）の結果と構想構成について ※事務局説明

（3）分野別グループワーク（分野別課題抽出と地域理想の確認）

対象分野：「森林整備・素材生産」、「苗木生産」、「木質バイオマス」

～グループワーク内容～

①地域の理想の姿について

②課題点・問題点について

③取組内容（対策・アイデア）について

（4）とりまとめ発表

4 その他

5 閉 会

大館北秋田地域林業成長産業化協議会
連絡会議（構想検討会）

次 第

【午後の部／対象分野：「木材加工・流通」、「家具・伝統的工芸品」、「住宅事業・建築設計」】
日 時：令和4年7月7日（木） 13：30～15：30
会 場：大館市北地区コミュニティセンター 別館2階 多目的室

1 開 会

2 事務局長あいさつ

3 協議案件

（1）地域概要について ※事務局説明

（2）協議会アンケート（3月実施）の結果と構想構成について ※事務局説明

（3）分野別グループワーク（分野別課題抽出と地域理想の確認）

対象分野：「木材加工・流通」、「家具・伝統的工芸品」、「住宅事業・建築設計」

～グループワーク内容～

①地域の理想の姿について

②課題点・問題点について

③取組内容（対策・アイデア）について

（4）とりまとめ発表

4 その他

5 閉 会

川上分野

素材供給量

<地域内>

A材 51,670m³
 B材 6,433m³
 C材 22,702m³
 合計 80,805m³

<地域外>

A材 6,427m³
 B材 40,014m³
 C材 10,705m³
 合計 55,379m³

再造林面積

<国有林>

スギ 66.86ha
 カラマツ等 0.00ha
 広葉樹 0.00ha
 合計 66.86ha

<民有林>

スギ 24.37ha
 カラマツ等 15.99ha
 広葉樹 9.47ha
 合計 49.83ha

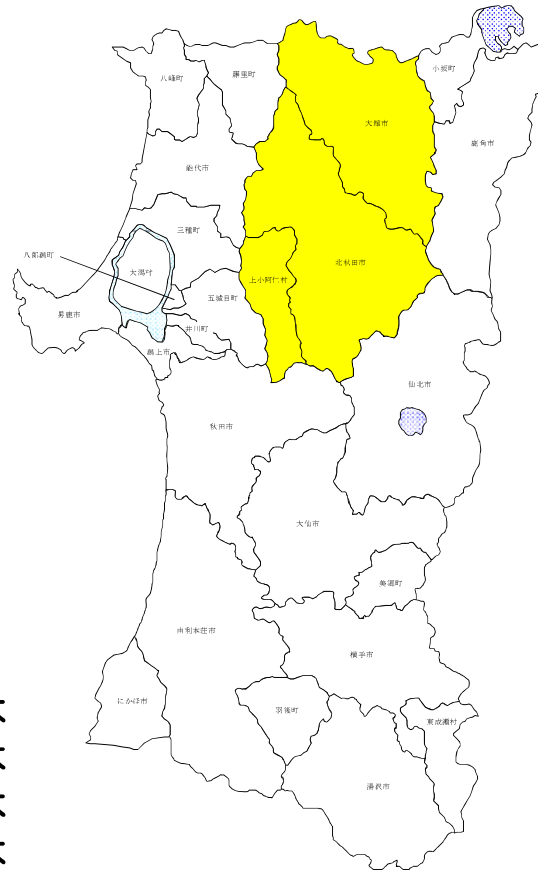
苗木出荷量

<地域内>

スギ 411,819本
 カラマツ等 17,758本
 広葉樹 1,350本
 合計 430,927本

<地域外>

スギ 357,185本
 カラマツ等 350,783本
 広葉樹 251,869本
 合計 959,837本



川中分野

丸太入荷量（製材・チップ）

<国有林>

地域内 27,197m³
 県内 7,225m³
 県外 7,902m³
 合計 42,324m³

<民有林>

地域内 49,067m³
 県内 23,277m³
 県外 17,103m³
 合計 89,447m³

ラミナ等入荷量（集成材・フレカット）

<国産材>

地域内 1,142m³
 県内 5,444m³
 県外 5,261m³
 合計 11,847m³

<輸入材>

欧州 108,764m³
 北米 5,687m³
 その他 0m³
 合計 114,451m³

国産材製品供給量

<製材・集成材等>

地域内 5,399m³
 県内 7,328m³
 関東他 21,385m³
 合計 34,112m³

<チップ等>

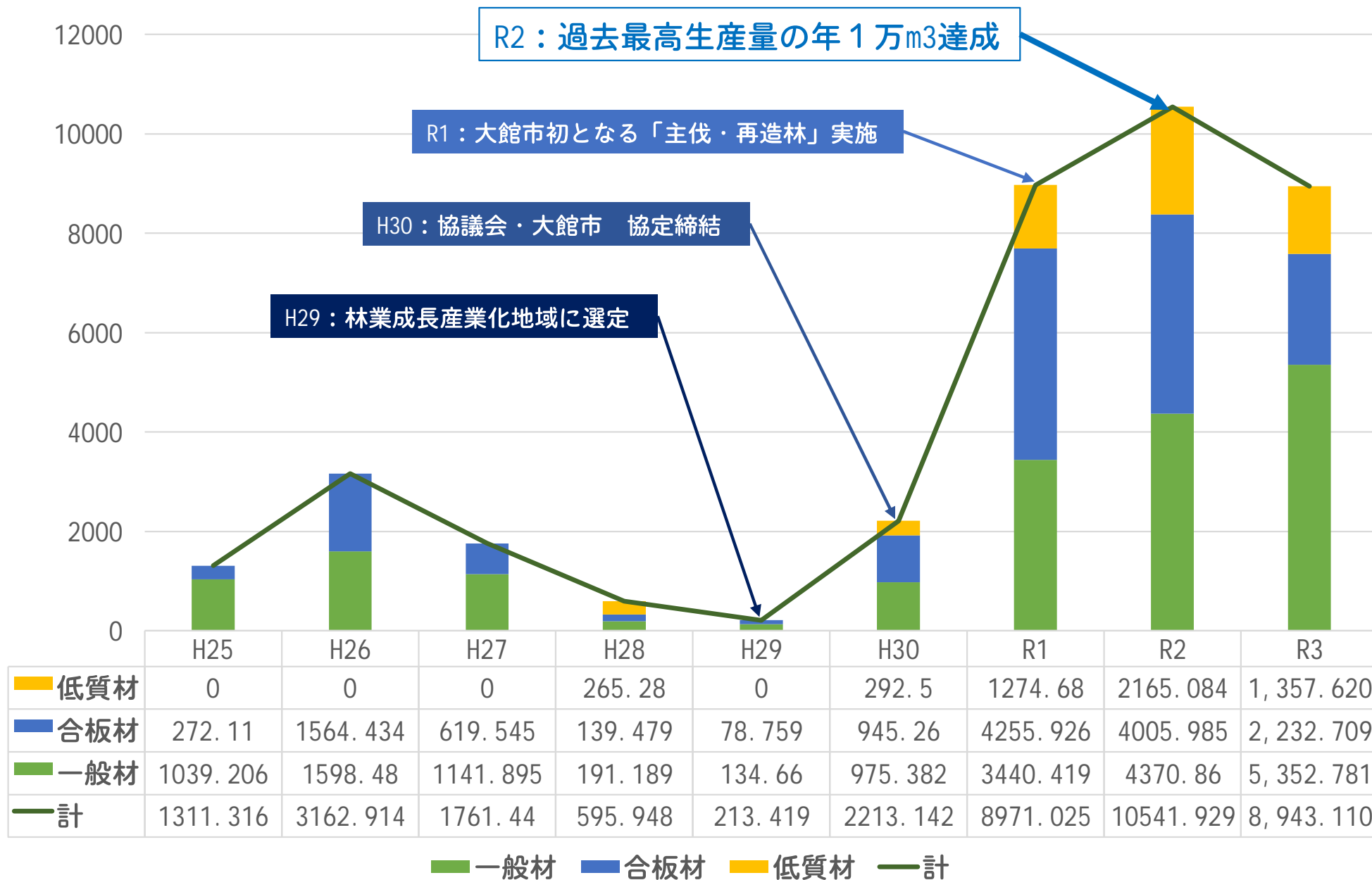
地域内 15,000m³
 県内 23,669m³
 関東他 0m³
 合計 38,669m³

【川上分野 傾向・ポイント】

- ・ A材（主に製材向け）、C材（主にチップ向け）の多くは地域内へ供給、B材（主に合板向け）は地域外（秋田市、男鹿市等）へ供給している。
- ・ 民有林では再造林樹種としてカラマツを導入する例が増えてきている。
- ・ スギ苗木出荷量の約7割はコンテナ苗。

【川中分野 傾向・ポイント】

- ・ 国有林比率が高い地域であるが、民有林からの素材を多く入荷している。
- ・ 製品の約6割を県外（特に関東圏）へ出荷している。
- ・ チップの地域内供給は燃焼用、県内（地域外）は発電用に出荷している。



1m3当たり丸太販売額比較（単位：円）

販売方法	R1	R2	R3
市入札方式	7,135	6,718	8,093
協定方式	8,588	8,164	9,859

1m3当たりの市への還元額比較（単位：円）

施業種	販売方法	R1	R2	R3
間伐	市入札方式	-	3,125	5,515
	協定方式	1,887	-	3,698
主伐・再造林	市入札方式	1,011	-	-
	協定方式	2,188	1,607	2,804

○原木販売の方法について

1 市入札方式

- ・市有林間伐等業務で生産された丸太の売り払い入札。
- ・総数量による販売または1立方メートル単価により販売。
- ・間伐等業務（調査含み）を林政課、売払を管財課でそれぞれ対応。

2 協定方式（林業成長産業化地域創出モデル事業における試験的運用）

- ・大館市有林の経営および木材の流通販売を目的に、大館北秋田地域林業成長産業化協議会と「森林経営及び木材販売に係る協定書」を締結し、伐採から販売までを一括で委託。
- ・森林経営を協議会総務部会の部会長（大館北秋田森林組合）、木材販売を副部会長（物林株）が担当。

参考資料（実績内訳）

市入札方式	項目	R1主伐・再造林	R2間伐	R3間伐
	歳出(円)	8,569,000	72,371,200	34,683,000
	補助金(円)	2,459,309	49,297,212	24,698,960
	丸太収入(円)	7,118,927	43,139,487	31,352,718
	差引(円)	1,009,236	20,065,499	21,368,678
	取扱量(m3)	997.738	6420.929	3873.978
	1m3当たり販売額(円)	7,135	6,718	8,093
	1m3当たり還元額(円)	1,011	3,125	5,515
	面積(ha)	3.13	101.56	43.74
	1ha当たり還元額(円)	322,439	197,572	488,538

協定方式	項目	R1間伐	R1主伐・再造林	R2主伐・再造林	R3間伐	R3主伐・再造林
	事業費(円)	44,938,300	28,349,200	34,115,400	38,415,342	18,950,534
	補助金(円)	14,281,905	6,419,899	7,096,755	21,856,312	2,653,900
	丸太収入(円)	38,872,126	29,851,730	33,642,328	27,264,781	22,394,490
	差引(円)	8,215,731	7,922,429	6,623,683	10,705,751	6,097,856
	取扱量(m3)	4352.715	3620.572	4120.48	2894.489	2174.643
	1m2当たり販売額(円)	8,930	8,245	8,164	9,419	10,298
	1m3当たり還元額(円)	1,887	2,188	1,607	3,698	2,804
	面積(ha)	29.91	8.05	11.25	50.61	4.00
	1ha当たり還元額(円)	274,681	984,152	588,771	211,534	1,524,464

<目的・ポイント>

○令和3年度よりスタートした「大館市木材利用促進計画」の推進に向けて、市内で木材需要を支える住宅事業の取組状況及び市産・県産スギ材等の木材調達に関する実態調査を行うことを目的にアンケートを実施。

○また、アンケート調査は令和3年度より創設した「大館市ウッド・チェンジ推進事業」及び「大館市ウッド・チェンジ推進奨励金」の有用性等について検証するほか、世界的な木材価格暴騰（通称：ウッド・ショック）による影響調査も兼ねる。

< アンケート概要 >

1. 対象者

大館市内住宅事業関係者

2. アンケート送付数・回答数

送付数 51社

回答数 42社（回答率82%）

3. アンケート調査期間

令和3年7月10日～30日

4. アンケート内容

以下の①～④の設問についてアンケートを実施。

①市産材・県産材のスギ材取扱割合について

・「25%未満」、「25%以上、50%未満」、「50%以上、75%未満」、「75%以上」、「分からない」の5択

②市産・県産スギ材の材料調達について

- ・スギ材の主な使用部位
- ・スギ材の産地情報への意識度
- ・スギ材の調達における重要ポイント

③ウッド・ショックの影響について

- ・影響の有無
- ・影響の内容

④木材のサプライチェーンの構築について

- ・サプライチェーン情報共有化の必要性の有無
- ・必要性の有無に関する理由

< アンケート結果 >

○各設問における回答結果について

①市産材・県産材のスギ材取扱割合について

・回答者のうち取扱割合5割以上占めているのが12社（28.5%）、5割以下が24社（57.1%）であった。※6社は「不明」回答。

②市産・県産スギ材の材料調達について

・スギの調達材料については「下地材(34社)」が最も多く、続いて「構造材(19社)」、「内装材(15社)」、「外装材(6社)」、スギ材を使用していない事業者は4社であった。※重複有

・調達するスギの産地情報を意識していると回答した事業者は21社（56.8%）、意識していないが16社（43.2%）、回答無しが5社であった。

・スギ調達における重要ポイントについて、「価格(28社)」が最も多く、続いて「品質(24社)」、「供給安定性(22社)」、「納期(21社)」、「ブランド(5社)」であった。※重複有

③ウッド・ショックの影響について

・影響有りが38社（90.5%）、無しが3社（7.1%）、わからないが1社（2.4%）であった。

・影響の内容について、多い順番に「木材価格(38社)」、「納期(32社)」、「供給(28社)」、「品質(2社)」であった。※重複有

④木材のサプライチェーンの構築について

・必要性を感じるが19社（45.2%）、必要性を感じないが2社（4.8%）、わからないが21社（50%）であった。

< 目的・ポイント >

- アンケート調査結果の深掘を目的に、アンケート回答者42社のうち18社を対象に個別訪問によるヒアリングを実施。
- アンケート調査結果に関連して、木材利用に関する建築主の実態、市産材・県産材のメリット・デメリットのほか、各社の木材調達先に関するヒアリングを行った。

< アンケート概要 >

1. ヒアリング対象者

市内住宅事業関係者 アンケート回答者42社のうち18社※
 ※新築数、令和2年度木材利用関係補助事業（木材需要回復支援事業費補助金、木材利用奨励金）申請者、市産・県産スギ材の取扱割合等を考慮して選定。

2. ヒアリング調査期間

令和3年8月23日～9月2日

3. ヒアリング内容

以下の①～⑤の設問についてヒアリングを実施。

①新築に関する木材使用の調整について

(1)木材にこだわった建築主の割合について

(2)設計の実施形態について（直営 or 委託）

⇒市ウッド・チェンジ推進事業に関する意見等

②新築に関する使用木材の樹種、使用量、仕入先等について

(1)年間新築件数

(2)木材使用量

⇒市産材・県産材利用のメリット、デメリットについて

③ウッドショックの影響について

⇒木材の価格、納期、供給、品質など具体例

④木材のサプライチェーン情報の共有について

⇒情報を共有化する場や仕組みの構築についての意見・要望等

⑤建築業者として困っている点、要望について

< アンケート結果 >

○ヒアリング結果、回答傾向について

①新築に関する木材使用の調整について

- ・木にこだわる建築主の割合については、18社のうち15社が、各社で商談を行う建築主の1割程度と回答。木材よりもデザイン、性能、断熱効果を重視する建築主がほとんどのこと。
- ・「ウッド・チェンジ推進事業」の存在を知らずに商談に訪れる建築主がほとんどである。

②新築に関する使用木材の樹種、使用量、仕入先等について

- ・木材調達関連情報については次頁で解説。
- ・スギ市産材・県産材のメリットに関して言及する事業者は少数で、「強度不足」で構造材（梁等）に向かないというデメリットを言及する事業者が14社と多かった。メリットについては「補助金が受けられる（2社）」、「加工しやすい（2社）」と回答。

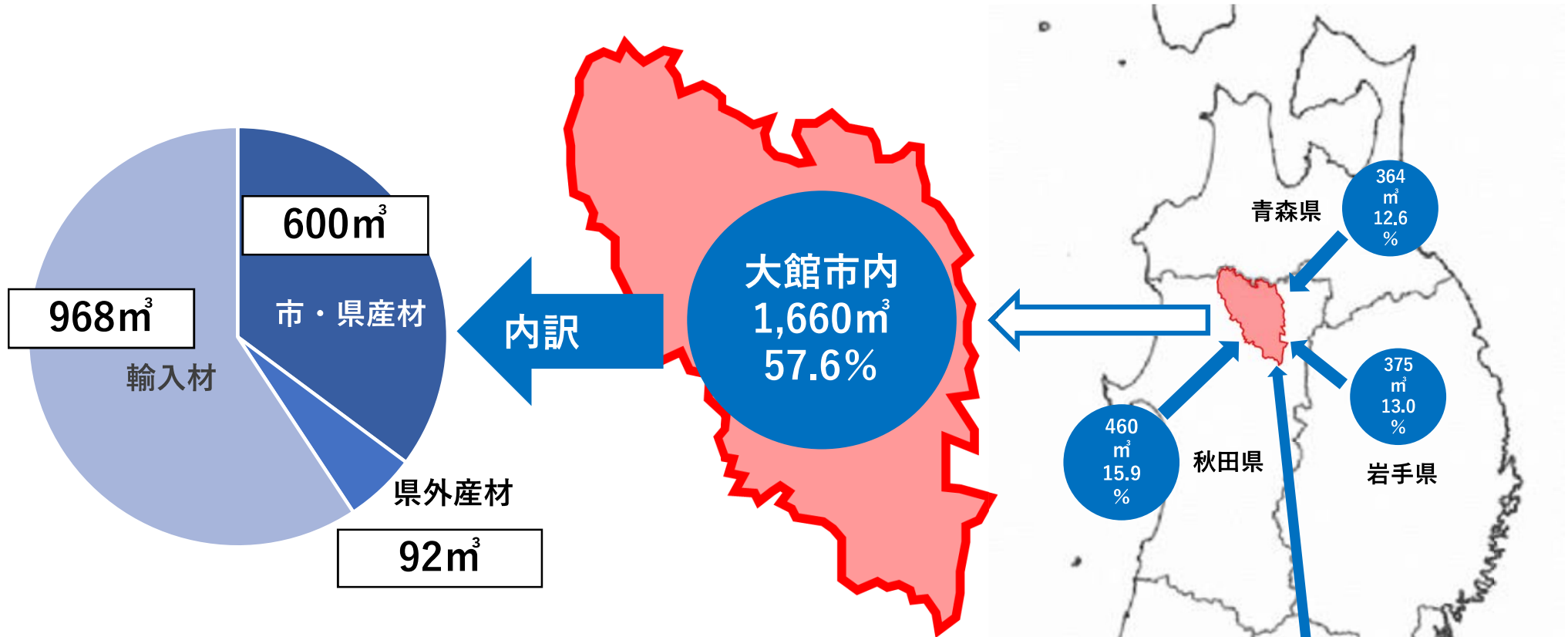
③ウッドショックの影響について

- ・価格、納期等の影響があるものの住宅ローン減税の控除期間再延長に伴い、新築に関する相談件数は増加傾向にある。

④木材のサプライチェーン情報の共有について

- ・情報共有化や仕組みの構築について必要性を感じているという回答が多いものの、経済効果等のメリットを求める声が多く、具体のサプライチェーン構築に関する言及は少なかった。
- ・大館北秋田地域林業成長産業化協議会の取り組みに興味を示す事業者が数社有り。

○市内及び市外からの木材調達の状況（林政課調べ）



○ヒアリング対象18社のうち16社での新築住宅における材料の調達内訳（推計）

調達先	市・県産材 (m ³)	県外産材 (m ³)	輸入材 (m ³)	小計 (m ³)
大館市内	600	92	968	1,660
秋田県（市内除く）	24	0	436	460
青森県	11	16	337	364
岩手県	0	0	375	375
宮城県	13	0	12	25
合計	648	108	2,128	2,884



大館北秋田地域林業成長産業化協議会 アンケート結果

令和4年7月

<調査目的>

大館市（事務局）では令和3年2月16日に2050年までに二酸化炭素実質排出ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ宣言」を行っており、二酸化炭素削減化・固定化に向けた森林整備や木材利用に大きな期待が寄せられていることから、協議会においても「ゼロカーボンシティ」の実現に向けた構想・ロードマップ等の作成について検討するため、アンケートを実施したものの。

<調査期間>

令和4年3月11日 ～ 3月28日

<調査対象会員数・回答数>

会員区分	分類	会員数	回答数	回答率
森林組合	川上	1	1	100%
素材生産者		13	12	92%
苗木生産者		6	3	50%
製材・加工事業者	川中	7	7	100%
家具・工芸事業者		3	2	66%
木質バイオマス事業者		4	4	100%
木材流通事業者		2	2	100%
住宅事業者	川下	14	9	64%
建築設計事業者		13	12	92%
IT・ICT関連事業者		2	2	100%
計		65	54	83%

<調査結果の概要>

○設問 1-1 について（協議会の取り組みへの関心度）

・最も関心が高かったのは「②人材の確保と育成」、次いで多かったのは「①サプライチェーンの構築」となった。人材不足やウッドショックの影響等への意識が読み取れる。

○設問 1-2 について（設問 1-1 の中で特に積極的に関わりたい項目とコメント）

・設問 1-1 と同様に「②人材の確保と育成」と「①サプライチェーンの構築」に関するコメントが多かった。一方で、全体が良く分からないとのコメントもあり、新規会員向けには協議会の目的や方向性についての認識を共有できるよう対応が必要と思われる。

○設問 2-1 について（関心がある、または、今後注力すべきだと思う取り組み）

・森林整備分野の上位 3 位は順番に「間伐」、「保育」、「主伐」であった。木材産業分野においては「住宅・非住宅の地域材利用」、「公共建築物の木造・木質化」、「木質バイオマス利用」であった。

○設問 2-2 について（2-1 の回答内容についての補足等）

・回答数が少ないため省略。

○設問 3（業績拡大を目指している事業や取組内容）

・会員の事業計画等に関わる内容のため掲載省略。

○設問 4 について（取り組みたいまたは興味があるテーマ）

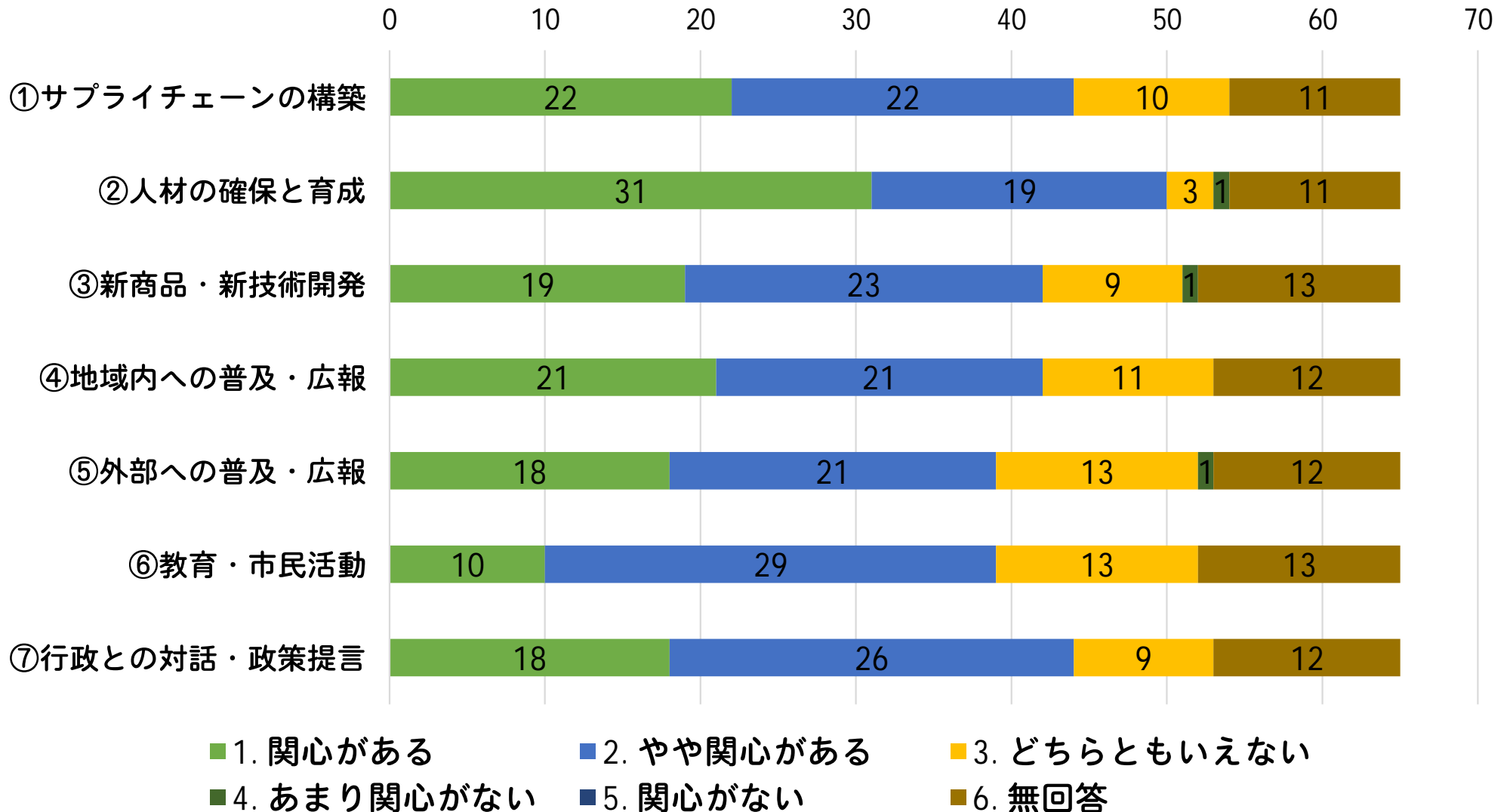
・川上分野においては新しい技術（ICT等）への期待が読み取れるコメントが多かった。木材産業分野においては木材の地域内利用に関するコメントが多かった。

○設問 5 について（協議会活動に関する意見・要望・提案等）

・令和 4 年度より新体制となり、連携を期待するコメントが多かった。一方で、会員数増加や分野の拡大により、日常業務への影響を懸念するコメントもあった。

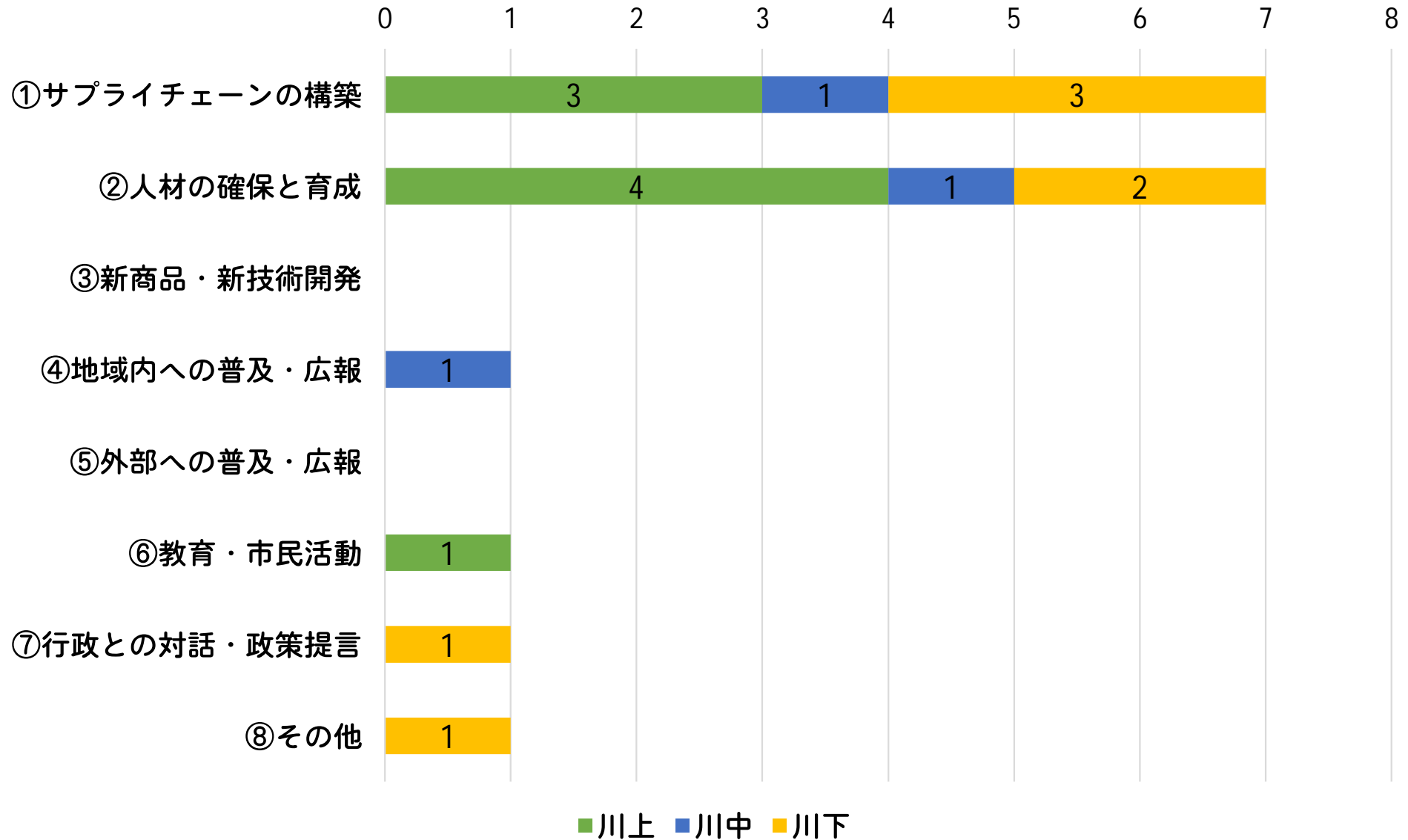
設問1-1 協議会の取り組みで、下記の①～⑦の項目はどのように感じられますか？それぞれにチェック（☑）をお願いします。

設問1-1 全体 (n=65)



設問1-2 1-1の回答内容で、特に積極的に関わりたい項目がございましたら、項目番号①～⑧でお答えください。また、その理由等についても記載をお願いします。

<集計結果>



設問1-2 1-1の回答内容で、特に積極的に関わりたい項目がございましたら、項目番号①～⑧でお答えください。また、その理由等についても記載をお願いします。

<理由等について(①～②)>

「①サプライチェーンの構築」を選択した方

- ・素材生産と苗木供給の機能を活かして、サプライチェーン構築の一翼を担っていきたい。(素材生産)
- ・川上、川中、川下の協力体制が不可欠な為。(素材生産)
- ・民有林への植林が増えていかない要因の一つとして、林業従事者が長期的に減少していること、従事者の高齢化の進んでいると伺っており、全体の流れを止めないような仕組みを構築することが最も重要であると考えている。(苗木生産)
- ・前回の豊洲パークレストラン等への木材製品供給を終えて、今後新たに継続的に利用してもらうにはどのような取組をしていけばよいのか、考えていききたい。新たな協議会参加メンバーの方々と情報交換を重ねて、考えていききたい。(木材流通)
- ・輸入材も不安定になっているため。(住宅事業)
- ・地場産業として成立するのか？(建築設計)
- ・林業全般に役立つ製品・サービスを提供したい。また、林業の発展に貢献できる新技術開発も行いたいと考えている。(IT・ICT関連)

「②人材の確保と育成」を選択した方

- ・近年は人材の確保が一番の問題のため(素材生産)
- ・急務の課題です。(素材生産)
- ・継続して進めて行くためには人材確保と育成が極めて重要と考えているので、事業の持続のためにも必要と感じています。(素材生産)
- ・求人広告を提出しても、求人者が来ない。現在の従業員の平均年齢が50代になっていて危機感を持っている。(素材生産)
- ・人材の確保と育成は急務であり、このままでは自社のような小さい会社は、職人がいなくなり廃業の可能性があります。(住宅事業)
- ・発信権と知識のある人が増えれば、開発、広報などの可能性が広がると考えている。(建築設計)

設問1-2 1-1の回答内容で、特に積極的に関わりたい項目がございましたら、項目番号①～⑧でお答えください。また、その理由等についても記載をお願いします。

<理由等について(④～②)>

「④地域内への普及・広報」を選択した方

・再生可能エネルギーを取り扱っている企業として、地域住民に積極的に推進活動を行っていきたいと考えている為。(木質バイオマス)

「⑥教育・市民活動」を選択した方

・排出ゼロは、一自治体、一企業でなく市民、国民と一緒に取り組むことが重要である。(素材生産)

「⑦行政との対話・政策提言」を選択した方

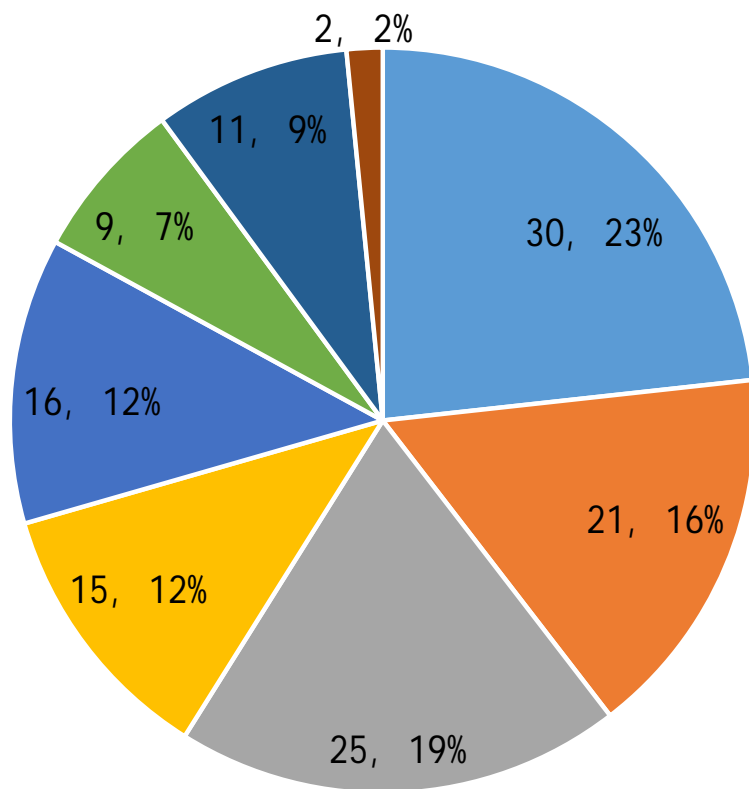
・更なる秋田県産材の利用促進をするべく、公共・民間の建設工事への利用を促す政策を考えるため。(住宅事業)

「⑧その他」を選択した方

- ・補助金がもらえる項目。(製材加工)
- ・まだ全体が良くわからない。(建築設計)

設問 2-1 協議会活動において関心がある、または、今後注力すべきだと思う取り組みについて、分野ごとに当てはまるものに最大3つまでチェック (☑) をお願いします。なお、ご自身の分野に関わらず全てお答えくださるようお願いいたします。

< 森林整備分野 (集計結果) >

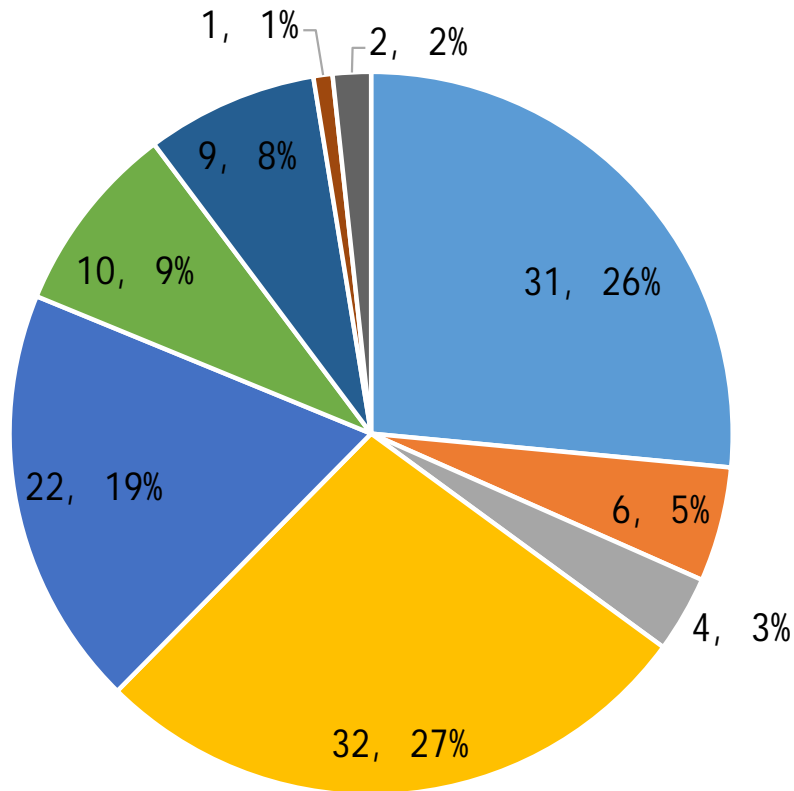


- 間伐
- 主伐
- 保育
- 路網整備
- 森林集約化
- 鳥獣害・虫害対策
- 苗木生産
- その他

取組	順位
間伐	1 (23%)
主伐	3 (16%)
保育	2 (19%)
路網整備	5 (12%)
森林集約化	4 (12%)
鳥獣害・虫害対策	7 (7%)
苗木生産	6 (9%)
その他	8 (2%)

設問2-1 協議会活動において関心がある、または、今後注力すべきだと思う取り組みについて、分野ごとに当てはまるものに最大3つまでチェック(☑)をお願いします。なお、ご自身の分野に関わらず全てお答えくださるようお願いいたします。

＜木材産業・木材利用分野（集計結果）＞



- 公共建築物の木造・木質化
- 土木事業への木材利用
- 木質バイオマス利用
- 木育の推進
- その他
- 木製什器・備品等の開発
- 住宅・非住宅の地域材利用
- 都市部・海外への木材供給
- 木工体験等サービス

順位	順位
公共建築物の木造・木質化	2 (26%)
木製什器・備品等の開発	6 (5%)
土木事業への木材利用	7 (3%)
住宅・非住宅の地域材利用	1 (27%)
木質バイオマス利用	3 (19%)
都市部・海外への木材供給	4 (9%)
木育の推進	5 (8%)
木工体験等サービス	9 (1%)
その他	8 (2%)

設問2-2 2-1の回答内容について補足等ありましたら記載をお願いします。（自由記載）

- ・森林については知識がとぼしいのでよくわからないが、地域材を入手できない、活用できないなど、資源について漠然と不安を持っている。利用については全体的に活用しようという意欲を高める必要があると思う。（建築設計）
- ・副産物で新しいビジネスを生み出したいと思っている。（建築設計）

設問4 貴社において取り組みたいまたは興味があるテーマがありましたら回答をお願いします。
(自由記載)

<川上分野に関するテーマ等>

- ・IT・ICT関連事業者が加入した場合に、素材生産や苗木生産においてどのようなITの活用ができるのか期待している。(素材生産)
- ・皆伐再造林(素材生産)
- ・Jクレジット(素材生産)
- ・間伐・皆伐における集材方法について、効率よく出来る方法および設備があれば知りたい。(素材生産)
- ・障害者の働く場の確保、工賃の増額の為、安定した杉苗生産ができるよう、出荷先を確保したい。(苗木生産)
- ・①林業作業従事者の安全確保のための仕組み(システム)づくり(携帯電波圏外の山林での通信方法も含む)、②地域の林業関係者の情報共有が可能なプラットフォームづくり。(IT・ICT関連)

<川下分野に関するテーマ等>

- ・木質チップを燃料とする小型バイオマスCHPを、地域で供給可能な木材量に合わせて設置することにより、電気・熱の有効利用を図り、エネルギーの地産地消を促進させる取組み。この取組みにより化石燃料エネルギーの消費を減らしCO₂削減が図られる他、林業関連産業の活性化と雇用創出などの好循環を生み出すことが出来る考える。(木質バイオマス)
- ・とにかく秋田杉をもっと建物(住宅)に使用できるように、価格仕入等を地元優遇してほしい。(住宅事業)
- ・秋田県産木材の利用促進の観点から、建設工事の構造材や仕上材等が年間を通し、どのくらい増減しているかに興味がある。(住宅事業)
- ・地域材を地元で使用できるようにしたい。デメリットも含めて、使える様な新しい企画も必要と考える。低炭素化のためにどう計画していくのか全体的に興味がある。(建築設計)
- ・地元木材の利用の拡大、それに伴う新製品の開発はどうなっているのか。(建築設計)
- ・秋田杉のCLT構造の建築(建築設計)
- ・燻製用ウッドチップ、バイオマストイレ、酵素風呂、融雪設備(建築設計)
- ・生活環境への木材の活用(建築設計)

設問5 最後に協議会活動に関する意見・要望・提案等ございましたら回答をお願いします。
(自由記載)

- ・ 広範囲の人を参集するのは良いと思いますが、焦点が定まらなくならないように願います。又、内容が高度化しすぎると事前準備も必要になり、日常業務にも影響あるかもしれない。そこは適度をお願いします。(素材生産)
- ・ 市有林である限り、市内業者が発展するように考えてほしい。(素材生産)
- ・ 来年度から北秋田市と上小阿仁村が抜けた上でさらに川下の参画メンバーが増える状況を考えると、なお一層の大館市の負担増が懸念されます。(素材生産)
- ・ 協議会を通じて様々な関係を図り、相乗効果を高められたら良い。作業など得意分野で連携できれば良い。地域がまとまってクレジット創出やクレジット買ってくれる企業へ提供できたら良い。(素材生産)
- ・ 様々な業種から寄せられた意見を集約し、ゼロカーボン実現に向けて取り組んでいきたい。(苗木生産)
- ・ 伝統工芸品には良質の秋田杉高樹齢材が必要である。伝統工芸品を守る為に、高樹齢材が計画的に生産されるようにお願いします。(家具・工芸)
- ・ 地域内の工務店が、現状どのように地域材を使用しているのか(部位、数量)、また興味を持っているのかを知りたい。(木材流通)
- ・ 北秋田や県単位で合併して山から住宅引渡しまで一つの会社にする。ハウスメーカーのように、工場生産にして人手不足解消、工業化しないと若い人は集まらない。他県にもどんどん出荷する。(住宅事業)
- ・ アンケート結果を見て、川上・中・下の考え方の違いというのがわかった。皆が協議会や行政を重要視していないが、今までの延長という視点では何も変わらないので、違った視点で新たな考えを検討することがとても大切だと思う。ここに考えがいかない事が危機では。これから世の中が大きく変わるので、生き残れる様に皆で協力していけたらと思う。(建築設計)
- ・ 月一定例会(進捗状況は文書で事前(前日)配布)をしたり、あれば参加したい。お酒は飲みに行かなくて良い。(建築設計)

大館北秋田地域林業成長産業化協議会 新構想 構成案

- 1 地域の概要（現状・課題など）
- 2 私たちが目指す将来像（キャッチコピー・ポンチ絵など）
- 3 構想の策定について（目的）
- 4 構想に掲げる5つの柱と取り組み内容

- ①森林資源の「循環の輪」創造に向けた取り組み
- ②「新しい林業・木材産業」に向けた取り組み
- ③森林資源の地産地消によるまちづくりへの貢献
- ④地産外商による木材産業の競争力向上
- ⑤森林・林業・木材産業の新たな価値づくり

⇒①～⑤にイメージ写真・図、事業名称、キーワードなど記載

- 5 構想の推進体制について

⇒協議会（連絡会議等）の開催、取組状況の公表、産学官連携などについて記載

<調査目的>

グループワーク用の参考資料作成のためアンケートを実施したものの。

<調査期間>

令和4年6月14日 ~ 7月1日

会員区分	分類	会員数	回答数	回答率
森林組合	川上	1	1	100%
素材生産者		13	6	46%
苗木生産者		6	2	33%
製材・加工事業者	川中	7	5	71%
家具・工芸事業者		4	0	0%
木質バイオマス事業者		4	2	50%
木材流通事業者		2	1	50%
住宅事業者	川下	14	3	21%
建築設計事業者		12	2	16%
IT・ICT関連事業者		2	2	100%
計		65	24	37%

区分	10年後の将来像
川上	<p>【再造林に関する内容】市有林以外の民有林の再造林率80%／一貫作業が必須となり、再造林がさらに進んでいる／皆伐量の増加に合わせて、再造林もバランスよく確実に行われている／低コスト再造林の実現／苗木生産の技術が向上し、生産量が増えている など</p> <p>【人材に関する内容】林業関連従事者の30%増／林業を起業する若者が増える／若者の雇用増 など</p> <p>【その他内容】針葉樹・広葉樹がバランスよくある山になっている／認証材需要の高まりに対して、供給体制ができている など</p>
川中	<p>【人材に関する内容】従事者のダブルワークによる効率化と収入の安定および向上が図られている／林業木材産業従事者の地位向上のため新たな資格創設と評価方法の確立されている など</p> <p>【生産体制整備に関する内容】設備の自動化および省力化ができている／専門製品からオールラウンド（小大径木活用）製品の供給体制整備ができている／エネルギーの高効率化と利活用によるコスト低減と競争力強化が図られている など</p> <p>【その他内容】付帯産業（機械、部品、車両、目立てなど）の育成と共存共栄が図られている</p>
川下	<p>【まちづくりに関する内容】「木造都市」と「スマートシティ構想」が融合した都市・地域づくりの”トッランナー”になっている／地場の木材が地域の公共施設や民間の住宅や店舗などに当たり前に使われ、伐って使って植えるモデルが定着している など</p> <p>【エネルギー利用に関する内容】地域内で消費される電気と熱エネルギーの一部を自ら調達出来る地域となっている</p>
その他	<p>【森林資源循環利用に関する内容】川上・川中・川下の循環の輪が構築されている／植付け、皆伐、製材、木材製品の木材循環システムが確立されている／地域の森林、木材の循環を官・民共同で持続可能な取組を継続できている など</p> <p>【林業の未来の姿に関する内容】循環型林業を維持できない林業経営体は既に地域内には皆無となっている／持続可能な社会の礎である緑を創造する産業として、林業界は新たな社会的評価を得るまでに至っている など</p> <p>【地域の変化に関する内容】林業の教育を受けることができる・習熟できるまちとなっている／森林資源より無駄なく高収益を上げられる仕組み（プラットフォーム）が構築されている／林業によって地域の課題解決を実現させた地域となっている／ICTの活用による地域活性化と労働人口減少が図られている など</p>

構想の柱	優先順位 1 取組内容	優先順位 2 取組内容	優先順位 3 取組内容
①森林資源の「循環の輪」創造に向けた取り組み	【 再造林 】人手不足と生産請負事業で余裕がない状況／ニホンジカによる樹木の食害対策／人の受け入れ態勢が整っていない／再造林を進めるための作業の効率化など	【 林道整備 】3級林道以下の道や、田畑の脇や集落の中の細い道を通らなければ木を出せない林地が多くあり、知る限り30年位前からあまり状況が変わらない	【 相互理解 】原木および製品安定供給のための需要と供給の相互理解（1次⇔2次産業） 【 人材 】人材獲得および育成プログラム構築
②「新しい林業・木材産業」に向けた取り組み	【 スマート林業 】ICTに関する技術者確保	【 労働環境改善 】労働力確保のための環境改善 【 建材 】耐火性・耐震性・耐腐食性・高強度等	【 苗木の品種改良 】苗木生産量の増加
③森林資源の地産地消によるまちづくりへの貢献	【 地域材 】製材所の減少、県産原木が大量に県外移出／県産の柱はあっても梁はない 【 木質バイオマス 】小型バイオマスCHPの知名度が低く、設置件数も少ない	【 エネルギー利用 】既存エネルギーの活用度 【 大径材 】大径木活用度	【 低質材活用 】セルロースナノファイバー／バークのバイオマス利用
④地産外商による木材産業の競争力向上	【 設備投資 】原木供給体制に即した原木置場、製品安定供給のための半製品置場等自社敷地確保や整備に対して多大な投資となる	【 需要開拓 】地域内・外において、継続的な新たな木材需要の開拓。木造住宅と公共建築物への地域産材利用量の増加	【 商品開発 】県北地域の素材を県外でも活用してもらえるような製品開発
⑤森林・林業・木材産業の新たな価値づくり	【 連携 】異業種とコラボできるような人材	【 資金 】長期目標で運営する資金がない	【 人材発掘 】体力・精神力ともに弱体化 【 森林活用 】広大な地域森林の魅力の発信力

構想の柱	優先順位1 取組内容／協働先	優先順位2 取組内容／協働先	優先順位3 取組内容／協働先
①森林資源の「循環の輪」創造に向けた取り組み	【 再造林 】補助金以外にも何か方策を考える／行政・木材産業関連の団体、伐採許可を受ける時に、地持えも必ずするという仕組みを作る／県・市・事業者・森林組合	【 林道整備 】林道・市道・農道・私道等を含めた道路網の網羅的な問題の洗い出しと改良／各行政機関・土地所有者	【 相互理解 】国有林、公有林地ひいては私有地での中間土場整備と共有活用促進／行政 【 人材 】人材育成プログラムとその評価制度の確立／木高研、職能短大、高等学校
②「新しい林業・木材産業」に向けた取り組み	【 スマート林業 】再造林分野の人材確保のための「人材要件定義づくり」と「教育・トレーニング方法」／林業事業者 【 建材 】異素材：薬液注入・圧着・混合等／化学薬品、木材加工	【 人材確保 】スマート林業化によって林業従事者を集める／IT業界、林業体験インターンの企画／林業事業者	【 苗木の品種改良 】苗木の成長を早め伐採までの期間の短縮／大学・県などの研究機関
③森林資源の地産地消によるまちづくりへの貢献	【 地域材 】森林資源の地産地消、地産外商をスムーズに行うプラットフォームの構築と情報発信 【 木質バイオマス 】電気・熱の供給によるエネルギーの地産地消。／発電事業者、電気工事事業者、熱・温水利用の設備事業者	【 エネルギー利用 】既存エネルギー有効活用の調査および実施への助成／行政 【 大径材 】製材、乾燥、加工設備への助成による地域産構造材の普及促進／行政、木高研	【 低質材活用 】バイオマストイレ／産廃業者、林地残材有効利用す／行政、電力業界
④地産外商による木材産業の競争力向上	【 設備投資 】建物の助成および固定資産税減免、土地整備助成および固定資産税減免、原木処理兼除雪用重機の助成／行政	【 需要開拓 】地域内・外への木材製品販売。認証材丸太・製品の販売。秋田県産材を要望している顧客の開拓。／住宅会社、建設業者、設計士、木材加工業者、流通業者	-
⑤森林・林業・木材産業の新たな価値づくり	-	【 資金 】研修・教育の機会を提供し、対価をもらう。教育ビジネス。（免許合宿みたいなイメージで長期10,000時間）／林業指導者、重機	【 人材発掘 】本格作業体験／引きこもり人材 【 森林活用 】異業種コラボレーションによるJークレジットの産出／県・市・森林組合・事業者・大手企業、森林セラピーフィールドの設置／観光業

区分	10年後の将来像
川上分野に関する こと	<ul style="list-style-type: none"> ○市有林以外の民有林の再造林率80%、林業関連従事者の30%増。 ○1. 森林資源の地産地消が進み、地域全体の活性化が図られる。2. 林業の新たな可能性や、森林を身近に感じるイベントを数多く開催する。3. 森林経営管理制度により私有林の整備が進む。4. 林業を起業する若者が増える。5. スマート林業の導入により高収益、成長産業となる。 ○路網整備の確立。 ○針葉樹・広葉樹がバランスよくある山になっているべき→秋田杉の再造林面積が減って、生産量が減ると思いますが、動植物や周辺地域には、治山・治水も含め良い循環形成がされると思います。秋田杉の生産が減る分、広葉樹の利活用を考え木材産業にも幅を持たせる。 ○一貫作業が必須となり、再造林がさらに進んでいる。手つかずの山が減り、資源として利用できる面積が増えている。苗木生産の技術が向上し、生産量が増えている。森林資源が地域の大きな財産になっている。 ○現在は森林を所有していても、どの程度の資産価値があるか分からないが、将来的にはきちんとした手入れ、管理により有効な資産になってほしい。手入れ、管理することにより林業も活性化すると思います。 ○皆伐量の増加に合わせて、再造林もバランスよく確実に行われている。低コスト再造林の実現。認証材需要の高まりに対して、供給体制ができています。若者の雇用増。再生可能エネルギーの最大限利用。（地域内各地にバイオマスボイラーが設置され、安定的にバイオマスチップが供給されているなど）
川中分野に関する こと	<ul style="list-style-type: none"> ○10年後も経営維持するための人材確保および教育、育成する必要。積雪地域におけるハンディキャップを低減する必要。 ○原木受入体制の高回転と環境整備する必要。少子高齢化に伴う設備の自動化および省力化する必要。専門製品からオールラウンド（小大径木活用）製品の供給体制整備による地域貢献。エネルギーの高効率化と利活用によるコスト低減と競争力強化による地域還元。林業木材産業従事者のダブルワークによる効率化と収入の安定および向上。林業木材産業従事者の地位向上のため新たな資格創設と評価方法の確立。高性能林業機械、製材設備の保全技術向上。付帯産業（機械、部品、車両、目立てなど）の育成と共存共栄の仕組みづくり。
川下分野に関する こと	<ul style="list-style-type: none"> ○「木造都市」と「スマートシティ構想」が融合した都市・地域づくりの”トッランナー”としての姿。 ○地場の木材が地域の公共施設や民間の住宅や店舗などに当たり前に使われ、伐って使って植えるモデルが定着するようにしたい。そのためにも、弊社で木材を加工製品にする技術をさらに磨き地元でも普及できるものづくりに力を注いでいく。 ○地域で供給可能な木材を利用して、木質バイオマスチップを燃料とする小型バイオマスCHPを稼働させ、地域内で消費される電気と熱エネルギーの一部を自ら調達出来る地域となること。これにより、地域内のエネルギーの地産地消に繋げ、カーボンニュートラルへ貢献、さらに、道路網の整備や再造林推進など林業関連産業の活性化が図られ、森林資源活用の好循環が構築されること。
全体的な 内容、そ の他	<ul style="list-style-type: none"> ○川上・川中・川下の循環の輪が構築される事。 ○植付け、皆伐、製材、木材製品の木材循環システムが確立されている。国の木材特区に指定され、いろいろなプロジェクトが進められている。 ○人材が限りある中で、働き手が確保できている。 ○地域の森林、木材の循環を官・民共同で持続可能な取組を継続できている事。

区分	10年後の将来像
全体的な内容、その他 （続き）	<p>○コロナ禍を契機とした地方への移住の傾向は、夏場の酷暑が更に深刻化した関東圏から北東北への移住として爆発的に加速し、県の人口が増加に転じた。林業では最後の難題と言えた造林・保育系作業の機械化・自動運転化が数年前より普及。これらにより林業界の慢性的な人材不足が解消されつつある。気候変動対策が全企業活動の至上命題となることで、再生可能エネルギーは様々な形態で社会にとけこみ、バイオマス燃料としての木材需要の安定化ももたらした。環境への負荷の少なさから住宅・公共施設を問わず建築物の木造化が常識となり、建材としての杉の安定需要の源となっている。こうした背景ができあがったことで10年前の目標であった皆伐・再造林の循環型林業は既に軌道に乗ったかに見える。市内ではすべての山林の地積調査が完了し、レーザー計測等を用いた高精度の森林資源管理が確立しており、厳格な相互監視のもと循環型林業を維持できない林業経営体は既に地域内には皆無となっている。その後、持続可能な社会の礎である緑を創造する産業として、林業界は新たな社会的評価を得るまでに至っている。などなど・・・妄想するのは簡単ですが10年はあつという間ですよ。</p> <p>○林業の教育を受けることができる・習熟できるまちとなっている。（教育ビジネスで人・外資が集まる）※外資：受講料、住民税、生活費、家賃など→就業できるようになっている。（人が定着・集まる）→職人集落ができている。（空き家・建築業や林業の廃材利活用）※木材チップの発電機、畑の肥料、バイオマストイレ、酵素風呂→県内での木材使用を優遇している。ブランド化。伝統工芸に利用。→「林業の修業をするなら秋田」になっている。海外からの研修も受け入れている。</p> <p>○少子高齢化が進み、労働人口減少が加速する中で、ICT等の活用または外部からの労働人口確保が必要になる。外部からの労働人口確保においても、魅力ある街づくりは当然ながら、やはりICTの活用による地域活性化と労働人口減少への対応が必要。ICTの活用による労働人口減少への対応は、先進的な取り組みを行う地域として、若者の流出、および外部からの労働人口確保に繋がるとともに地域活性化にも繋がって行く。</p> <p>○秋田スギがブランド化され、林業・製材業・木製品製造業・森林サービス業など森に関係する仕事が地域を活性化。それにより住民が定着（特に若者）し、さらに地域外からの流入により地域消滅の危機からの脱出する未来を描きたい。地域の林業関連者間で情報共有され、森林資源より無駄なく高収益を上げられる仕組み（プラットフォーム）が構築され、「森に関係する仕事」＝「儲かる」を実現。</p> <p>○大館北秋田地域は、林業によって地域の課題解決を実現させた地域として知られるようになり、“東北の上勝町”とも呼ばれている。林成協の取り組みと働きかけにより、交流推進課や空き家対策NPO法人などを巻き込んでの施策が成功し、大館北秋田地域の林業従事者・移住者が10,000人に達した。きっかけは、再造林分野におけるさまざまな課題を、しくみの見直しとICT化によって解決したこと。労働環境が大きく改善され、適正な年収も保証できる状況を整備したうえで、林業と田舎暮らしの魅力をコンテンツとしてターゲット層へPR。それにより大館北秋田の林業に従事したい市民や移住者が増加。人材不足の課題も解決することができた。仕事のしかたや仕組みを近代化させ、人間は森林とともに暮らすことで豊かになれるという昔からある本質的な価値を再生することに成功した。過疎化で途絶えていた小さな部落の伝統的な祭りや行事もあちこちで復活し、それを引き継ぎたいと思う若者や子どもたちがさらに地域を活性化していくという、人の暮らしにも好循環をもたらしている。</p> <p>○あるべき姿というのとは違うかもしれませんが、人工減少と高齢化は避けられない事実であり、担い手不足やマンパワー不足は確実に今より深刻な問題になると思います。ICT技術の導入で効率化を進めて生産効率を高めないと生き残れない時代になるかと思います。</p>

構想の柱		①森林資源の「循環の輪」創造に向けた取り組み		
課題	優先順位 1	優先順位 2	優先順位 3	
	<p>○再造林率向上、林道整備の遅れ。 ○再造林推進が課題であるが、人手不足と生産請負事業で余裕がない状況。 ○循環の輪の構築。 ○周辺地域から素材を購入し製材を行っている以上、継続的に事業を行っていく為にこれが最も重要と考えます。バイオマス事業の参入、さらにはウッドショックと素材高騰による製品の値上げも余儀なくされ、素材生産、再造林というところには期待をしている。 ○再造林・保育の推進。上小阿仁の北に有害鳥獣のイノシシやニホンジカが増えている。特にニホンジカによる樹木の被害対策を、どのように取り組んでいくのか。高品質の木材生産のために、必要な対策だと思えます。 ○人の受け入れ態勢が整っていない、多分…。(物件・指導者・重機)、再造林するかどうか不明。 ○再造林を進めるための作業の効率化・スギ以外の樹種(気候や場所に合うもの)の利用。 ○再造林率が低い。植林の労働力不足。若手の雇用が少ない。民有林の施業集約化。低コスト再造林の実現。苗木供給力の向上。</p>	<p>○3級林道以下の道や、田畑の脇や集落の中の細い道を通らなければ木を出せない林地が多くあり、知る限り30年位前からあまり状況が変わらない。余り大きな目標を掲げるより、各方面等と協議して地道に計画的にそれらの道路状況を改善していければ、皆伐・再造林もやり易くなる。 ○林道整備 ○再造林率の向上、林道の整備、人材の確保と育成。</p>	<p>○森林資源の「循環の輪」創造に向けた取り組み ・原木および製品安定供給のための需要と供給の相互理解(1次⇔2次産業) ・人材獲得および育成プログラム構築とその評価制度の確立 ○森林の高収益化。</p>	
取組内容	優先順位 1 取組内容／協働先	優先順位 2 取組内容／協働先	優先順位 3 取組内容／協働先	
	<p>○再造林率向上のための仕組みづくり。補助金以外にも何か方策を考えていきたい。／行政、木材産業関連の団体 ○「資源の循環」が最初の柱と考える。 ○再造林の推進／素材業者 ○循環の輪の強化／素材生産業者と造材業者 ○既存民泊・空き家・コテージなどを長期滞在できるように整備するイベントをつくる。／住宅宿泊管理業者、広告代理店、建設会社工務店 ○再造林推進：伐採許可を受けるときに、地持えも必ずするという仕組みを作る、里山をもっと作る。／県・市・事業者・森林組合 ○市有林フィールドから出てくる丸太の流通販売。認証材の販売。低コスト再造林の実現。民有林の施業集約化の推進。／山林所有者 素材生産者、苗木業者、運送業者、流通業者</p>	<p>○林道・市道・農道・私道等を含めた道路網の網羅的な問題の洗い出しと改良／各行政機関、土地所有者 ○ニホンジカによる樹木の被害対策／県自然保護課・市町村林政課・種苗業界 ○再造林率の向上／苗木生産者、土木建設事業者、IT・ICT関連事業者</p>	<p>○森林資源の「循環の輪」創造に向けた取り組み、路網整備拡充による高性能林業機械導入の推進・国有林、公有林地ひいては私有地での中間土場整備と共有活用促進・人材育成プログラムとその評価制度の確立／行政・木高研、職能短大、高等学校</p>	

構想の柱	②「新しい林業・木材産業」に向けた取り組み		
課題	優先順位 1	優先順位 2	優先順位 3
	<p>○労働環境改善・ICT 化推進等を進めたとして、他の業種と林業を比べ、働きたいと思うのか。ICT など他の業種は林業よりずっと先に行っているだろう。協業にしても近いところで建設業も圧倒的に人手不足と聞く。地域の森林資源が大きいので、今までの人員では伐るばかりの林業から抜け出せない。</p> <p>○人材確保。</p> <p>○エリートツリー。</p> <p>○ドローン苗木運搬実施時のオペレーター育成。</p> <p>○再造林部分のしくみの見直しとICT化、人材確保。</p> <p>○働き手、後継者不足・限られた人数の中での苗木生産量の増加。</p> <p>○職人の高齢化が進んでいるので、若い人材の確保が必要。</p>	<p>○林業従事者の確保</p> <p>○労働力確保のため環境改善に取り組む必要がある。森林クラウドの活用で情報共有が必要。</p> <p>○工場の規模に対し、現状人員の確保が難しく生産量に影響している状況で、人材確保のための労働環境改善には関心を持って進めております。</p> <p>○新技術による建材開発。耐火性・耐震性・耐腐食性・高強度等も備えた建材があれば、利用の幅が広がるのではないかと。</p>	<p>○人材確保。</p> <p>○最先端技術・機器の導入・樹木の成長を早め伐採までの期間の短縮・人材の確保と育成。</p>
取組内容	優先順位 1 取組内容／協働先	優先順位 2 取組内容／協働先	優先順位 3 取組内容／協働先
	<p>○現場作業が主体の林業において、DX などの程度日常業務で生かせるものか実験的に取り組むのもよいか。土地にまつわる問題が終始ついて回るので、所有者不明や境界の明確化など昔から問題となっていることを解決していかなければ多大な資源量を誇っても活用できないし、スマート化も無理だ。これについて画期的な方法等あれば。</p> <p>○新技術による建材開発。耐火性・耐震性・耐腐食性・高強度等も備えた建材の生産。異素材との組み合わせ→薬液注入・圧着・混合等。／化学薬品、木材加工の分野</p> <p>○再造林分野の人材確保のための「人材要件定義づくり」と「教育・トレーニング方法」／林業事業者：再造林部分で活躍している人&向いていない人の資質および、業務の特性の分析が必要になるため、取材やデータ提供の協力が要る。</p> <p>○人材の確保。／全業種？</p>	<p>○スマート林業化によって林業従事者を集められないか（その前に、労災を無くすことが前提であるが・・・）／IT業界</p> <p>○林業体験インターンの企画／林業事業者</p>	<p>○人材確保。／素材業者</p> <p>○苗木の成長を早め伐採までの期間の短縮／大学・県などの研究機関</p>

構想の柱	③森林資源の地産地消によるまちづくりへの貢献			
課題	優先順位 1	優先順位 2	優先順位 3	
<p>○地域材の流通量、利用量の減少を懸念（人口減、着工減、周辺の製材所の減少、県産原木が大量に他県メーカーに買われるなど）</p> <p>○建築への木材の利用 県産の杉を使用しようと図面に記載しても、柱はあっても梁はない。無垢の床材などを指定しても、建材店からメーカーの既製品のカタログが届けられる。現実の市場はそんな状況であるのが一番の課題と思います。</p> <p>○小型バイオマスCHPの知名度が低いほか、実際に設置運用している施設が少ないため、一般的に認知されているとはいえない。燃料となる木質チップの安定供給と同時に安定した価格の維持。熱利用のシステム構築と経済性の確保。</p> <p>○木材はどうしても火に弱い。特殊加工を施し、住宅の外装内装で防火の認定取得。</p>	<p>○地産地消の促進</p> <p>○森林資源の地産地消によるまちづくりへの貢献 ・既存エネルギー有効活用・大径木活用促進</p> <p>○秋田県内の公共・民間施設の木造・木質化が進んでいない。特に秋田市の公共施設に関しては県外の業者、県外の材料が多く使われているため、産学官の連携が深くなるように弊社も働きかけをしていきたいと考えている。隣県の岩手では地場産材の活用がたいへん進んでいるので、見本にして欲しい。</p> <p>○地域材の利用。</p> <p>○構造材としての強度が低いので、プレカットの会社からは米松の梁の提案が多い。</p>	<p>○バイオマス用チップの供給。</p> <p>○地産地消のため地元森林資源にふれあうイベントが必要。</p> <p>○低質材の利用（バイオマス、セルロースナノファイバー）</p> <p>○バークのバイオマス利用がもっと進んでほしい。製材工場チップ工場ではほとんどがただ捨てている状態にあると思うが、木材としてバイオマス燃料にもっと使えるようになれば素材消費の観点においても有効ではないかと考える。</p> <p>○高価格に感じる（秋田県の賃金が低いから）</p>		
取組内容	優先順位 1 取組内容／協働先	優先順位 2 取組内容／協働先	優先順位 3 取組内容／協働先	
	<p>○公共施設等への木造・木質化を進めていきたい。市役所や渋谷区庁舎でも大変お世話になり、実績が増えてきているので引き続きPRをお願いしたい。／県北地域から出る原木を供給して頂いているので、広葉樹・杉ともに安定的に集材できるような仕組みをさらに進めていきたい。</p> <p>○木質バイオマス利用促進、チップのみならず薪などの化石年量にかわる熱エネルギーの実用性について／原木伐採業者、燃料を燃やす窯を作れる製造業</p> <p>○地域の森林産業関係者の情報共有し、森林資源の地産地消、地産外商をスムーズに行うためのプラットフォームの構築と情報発信。（森林資源を高付加価値で提供する仕組み）</p> <p>○小型バイオマスCHPを利用した地域内での電気・熱の供給によるエネルギーの地産地消。／発電事業者、電気工事事業者、熱・温水利用の設備事業者</p>	<p>○市木材利用促進／関係省庁</p> <p>○森林資源の地産地消によるまちづくりへの貢献、既存エネルギー有効活用の調査および実施への助成（木屑炊きボイラー等の蒸気利活用＝ハウス栽培（苗木野菜）、蒸気販売等）、大径木の活用促進（製材、乾燥、加工設備への助成による地域産構造材の普及促進）／行政、木高研</p> <p>○バイオマス発電：小規模なバイオマス発電所を多くする。その排熱を利用して農産物生産ができるとされる。／県・市・発電事業者・森林組合・JAなど</p>	<p>○大型製材所の進出を機にA・B材はもちろんのこと、チップ材もひっ迫してくると思われる。再造林率向上・脱炭素・電力供給の面からも、林地残材を無くして有効利用すべき。／行政、電力業界</p> <p>○バイオマストイレ／産廃業者</p> <p>○秋田杉のできる事。建築物の設計で、どうすれば秋田杉の利用を高められるか？</p>	

構想の柱	④地産外商による木材産業の競争力向上		
課題	優先順位 1	優先順位 2	優先順位 3
	<p>○地域材供給のため新規設備するにも建物（倉庫、工場等）が高額になり設備投資に躊躇する。原木供給体制に即した原木置場、製品安定供給のための半製品置場等自社敷地確保や整備に対して多大な投資となる。</p>	<p>○地域内・外において、継続的な新たな木材需要の開拓。木造住宅と公共建築物への地域産材利用量の増加。 ○利益を確保しつつ、良い物を作りあげる。</p>	<p>○県北地域の素材を県外でも活用してもらえよう、引き続き内装材に力を入れつつ新しい商品づくりにも力を注いでいきたい。</p>
取組内容	優先順位 1 取組内容／協働先	優先順位 2 取組内容／協働先	優先順位 3 取組内容／協働先
	<p>○林業木材産業の建物（倉庫、工場等）の助成および固定資産税減免・原木、製品保管のための土地整備助成および固定資産税減免（積雪地域の過大な設備投資となる建物は他産地との競争力を損なう）、原木処理兼除雪用重機の助成／行政</p>	<p>○地域内・外への木材製品販売、認証材丸太・製品の販売。秋田県産材を要望している顧客（ゼネコン、木材加工業者、設計士）の開拓。／住宅会社、建設業者、設計士、木材加工業者、流通業者</p>	-

⑤森林・林業・木材産業の新たな価値づくり			
構想の柱	優先順位 1	優先順位 2	優先順位 3
課題	○異業種のコラボできるよ う人材を育てる。	○異業種との連携が取れていない、長期目標で 運営する資金がない。	○今ある森林を植えてた世代の人達から 見ると、体力・精神力ともに弱体化が 恐ろしい現代。いっそ学校で林業体験 など一時的な生易しいものでなく、下 刈りなどを週3回取り入れるとか、100 万人以上いると言われる引きこもり人材 の社会復帰に、自然のなかで余り人も 接しない山仕事の世界はどうだろう か。やりすぎか。 ○広大な地域森林の魅力を発信する こと。森林体験フィールドの提供、観 光客誘致。木育。
	優先順位 1 取組内容 / 協働先	優先順位 2 取組内容 / 協働先	優先順位 3 取組内容 / 協働先
取組内容	-	○研修・教育の機会を提供し、対価を もらう。教育ビジネス。（免許合宿 みたいなイメージだが、もっと長期。 10,000時間とか…。） / 林業 指導者、重機	○異業種コラボレーションによる J-クレジットの産出、それにと もなうPR / 県・市・森林組 合・事業体・大手企業 ○木育プログラムの開発（幼 児～大人まで）。森林セラピー フィールドの設置。カーボン クレジットの販売。 / 地域住 民、観光業、環境貢献を希望 する会社

＜グループワーク内容＞

- ①地域の理想の姿について
- ②課題点・問題点について
- ③取組内容（対策・アイデア）について

＜進め方＞

- ◆1グループ5～6名程度。※事務局員はカウントしない。
- ◆ファシリテーターは予め設定。
- ◆ファシリテーター進行によりグループ内の各出席者へ①～③の集計結果に関する意見や疑問点についてコメントをもらう。
⇒疑問点について、対応する分野の出席者がいる場合は回答・解説を求めても良い。
- ◆グループワーク終了後、グループワーク内での意見内容の傾向や特徴について各ファシリテーターより発表。

令和4年7月7日
連絡会議

事務連絡

大館北秋田地域林業成長産業化協議会事務局

○今後の運営スケジュールについて

①新たな構想策定に係るスケジュール

- 7月上旬～8月上旬 構想検討会取りまとめ&構想案作成
- 8月上旬～9月上旬 会員への意見聴取（アンケート形式を予定）
- 9月中旬～9月下旬 連絡会議（構想説明会）の開催、構想案決定

②協議会運営・事業活動に関するスケジュール

<7月>

7月20日 大館曲げわっぱ150年の森育成事業下刈り体験学習（大館市主催／協力）

<8月>

8月上旬 森林認証先進地視察（北海道地域）参加予定者：行政及び森林認証取得者

<9月>

9月24～25日 第32回大館市生涯学習フェスティバル出展（大館市主催）

○補助事業について

- ・森林認証材の需要拡大（林野庁）採択（5/24付け）
- ・「地域内エコシステム」モデル構築事業（日本森林技術協会）採択（6/28付け）
- ・顔の見える木材での快適空間づくり事業（全国木材組合連合会）6/27付け応募申請

以上